



患者さんを中心にして、医師と「信頼」でつながる薬剤師

がったのかもしれない。

京丹後市にあるゆう薬局の管理薬剤師Jさんは薬剤師歴35年。製薬会社の研究職やドラッグストアを経て、3年前からのオーブンスタッフです。「保険薬局は医師と連携して、処方確認も担います。あまり知られていませんが、この役割は大きいですね」。

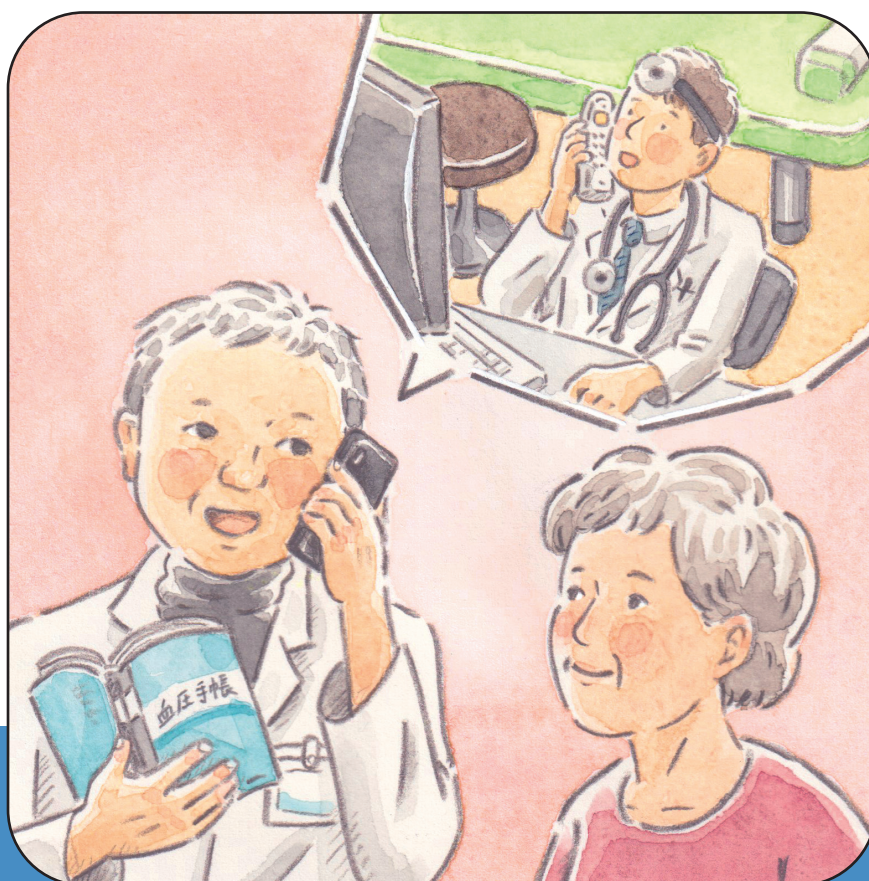
先日こんなことがありました。長く血圧の薬を服用する70代の東さん（仮）の薬が、突然変更に。新しい薬は薬効が強く、投薬も2カ月と長めです。変だな、と思ったJさんは、「先生は何かおっしゃっていましたか？」。東さんは「その日病院で測った血圧が高くて。薬変わる言うてた」。

東さんは普段、几帳面に家で血圧を測っています。たまたま血圧手帳を持参するのを忘れたそう。それを知っているJさんは東さんの記録を見て、それまで130で安定していた血圧がその日の病院の記録で170になっているのを発見します。血圧は血管内にかかる圧力で、緊張やストレスでも上がるもの。寒い日に病院に駆け込んであわてて計測したために、数値がはね上

Jさんは「先生に聞いてみますね」と東さんに断り、すぐに医師に連絡。東さんが長年、服薬によって血圧が安定していること、病院で血圧手帳を見せ忘れたなどの情報を提供。普段からコミュニケーションを取っていて、信頼する薬剤師からの提言に医師も納得して、無事もとの薬に戻ったそうです。

「薬剤師だから見えることもあると思うんです」と微笑むJさん。その手間を惜しまない姿勢が、医師から絶大な信頼を寄せられる理由なのでしょう。

「患者さんのベストな選択のために、医療従事者同士の信頼関係がうれしいですね」と話すJさんは、医療会合などで医師とも積極的にコミュニケーションを取っています。医療連携において、信頼が基本。患者さんを真ん中にした医療の実現のために、一人ひとりをていねいに見守り続ける。ゆう薬局の薬剤師はそんな仕事に全力を注いでいるのです。



豆知識

家庭血圧の考え方

血圧は色々な要因で変動します。また、自宅では気持ちが落ち着いているため、測定値は病院より低めに出る事が多い。一定の時間・条件で、自宅での測定値を知っておくのが大切です。

ゆう薬局グループ本部・宇野薬局

☎075-771-1690(本部)
📍京都市左京区浄土寺下馬場町106

🚶🏻‍♂️よりバス停は「錦林車庫前」

KBSラジオ

“サウンド版ハンケイ500m”
の番組内にて、ゆう薬局の
ラジオドラマを放送中！

毎週土曜17時～18時！